



Jems News

No. 153

2025年2月15日

日本環境変異原ゲノム学会

<https://www.j-ems.org>

***** 学会開催報告 ***** 日本環境変異原ゲノム学会 第53回大会（岡山）

大会会長
就実大学
渡辺 雅彦

日本環境変異原ゲノム学会 第53回大会を、岡山市の就実大学において、2024年（令和6年）12月7日（土）～8日（日）の2日間の日程で開催いたしました。また、これに先立ち、12月6日には就実大学でJEMS・MMS研究会第84回定例会と、JEMS・BMS研究会第71回定例会が開催され、12月4日には大会サテライトWSとして、東京で変異原性QSARワークショップが対面とweb配信のハイブリッドで開催されました。本大会には参加登録者263名に加え、シンポジウム演者等の招待者に加え、約300名の方々にご参加いただきました。実行委員を代表して、JEMS会員ならびにご参加いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

本大会では、先ずQSAR関連のセッションを実施することを1年半前に決定し、これを軸に残り2つのシンポジウムを企画しました。その結果、大会テーマを「未来の環境&ゲノムを守る」とし、以下の内容を取り上げました。

1. 「これからのゲノム安全性の評価：検出・解析・機序」
error-corrected NGS, DNA二本鎖切断修復, クロモソリプシス, エピジェネティクスなど, 変異誘発や発がんの理解に不可欠な最新技術や知見を紹介しました。
2. 「環境ゲノムモニタリングが拓く未来」
国研, 大学, 企業の研究者が, それぞれの視点から生物多様性・生態毒性・公衆衛生上の問題に関する取り組みを, 環境生物のゲノミクスや環境サンプル中の核酸解析を用い

て報告しました。

3. 「計算遺伝毒性学の可能性」

(Q)SARやインフォマティクス, ecNGSなど最先端の研究成果の, 計算遺伝毒性学への応用可能性について議論しました。本シンポジウムでは, 米国FDAのNaomi Louise Kruhlak博士による講演も行われました。

特別講演としては, 大会開催時には国立医薬品食品衛生研究所150周年記念行事に関する大役を終えられる, 任期最終年度の国立衛研所長, 本間正充会員に早くから依頼し, 「遺伝毒性」から「ゲノム毒性」へ, のタイトルでご講演いただきました。また, 本間会員の紹介で, 鍋師裕美国立衛研食品部第二室長に「福島原発事故後の食品中の放射性物質の規制と現状」についてお話しいただきました。

以上の企画に加え, プログラムではポスター発表コアタイム時間をこれまでより15分ずつ長く確保しました。また, そのうちの一部の演題については, 同日の午前に一般口演時間を設け, 口頭発表をお願いしました。活発な議論につながっていれば幸いです。また, 懇親会も復活させることができました。なおこの大会では参加登録をすべてオンラインとし, 当日参加でもオンライン登録と振込をお願いすることで, 登録と受付業務の効率化を図りました。当日参加者は0名でしたが, もし当日参加が困難と考えると断念された方がおられましたら, この場を借りてお詫びいたします。

最後になりますが, 本大会は, 開催の2年以上前の実施

準備時点で大会会長経験者から多くのアドバイスをいただくとともに、**QSAR** 関連セッション企画およびその他 2 つのシンポジウム企画立案から実行委員主体にお願いすることで、大会の概要が決まってきました。その後も運営に関わる様々なことを、ご意見等をいただきながら各実行委

員および株式会社センキョウの皆様をお願いすることで、大会を無事開催することができました。また大会実施にあたっては、就実大学・就実短期大学および関係の皆様のサポートを頂きました。ここに改めて深く感謝いたします。